

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第768号 平成26年7月11日

号泣記者会見

世の中、不思議な事が起こるものです。先日（7月1日）、私は何の気なしにテレビを見ていて驚きました。それは、兵庫県議会議員野々村竜太郎氏（47歳）の記者会見の様子でしたが、時にテーブルを叩きながら声を上げて泣く姿に、啞然として、声も有りませんでした。

事の発端は、野々村議員の政務活動費の不正使用疑惑問題が明るみに出て説明責任を問われたもので、テレビの画面は、いわば釈明の記者会見でした。

記者会見での一問一答の様子は、ネットで詳細に流れていますが、それに目を通して見ると、全く意味不明、説明責任を果たそうという意思は欠片も感じられません。

号泣場面はその会見の最中に起こったもので、恐らく記者の質問に窮したのだでしょう、逃げ場が無くなって泣くしかないという事だったのかも知れません。

しかし、本当に泣きたいのは、あの号泣場面を見せ付けられた有権者であり、我々の方です。

兵庫県議会では、7日代表者会議を開き、野々村議員に対して説明責任を果たせなければ、政務活動費等を返還し、議員を辞職するよう勧告しています。

この勧告文書を受け取った野々村議員は「辞職を念頭に考えている」と述べたといいますが、同僚議員の皆さんの苦虫を噛み潰したような顔が目に見えます。

今回、野々村議員が指摘されている問題は、2013年度に195回の日帰り出張費として約300万円を政務活動費から支出しており、同様の支出は2011年度からの3年間で800万円以上に上るとみられる他、神戸市内や大阪市内の金券ショップで切手を3万円ずつ購入する等、不自然な点が多々指摘されていました。

野々村議員は、こうした政務活動費の不正使用疑惑に関し、記者会見でどの様に釈明しているのか要点をかいつまんで紹介します。

- 報告書を提出する際に、自分なりに点検はしたが、回数を数えたりといった確認まではしていないので、常識からは考えにくい、不自然な支出とご指摘を受けても仕方がないと思う。
- （証拠書類の不備に関して）議員活動に時間を充てるために、なるべく報告は省力化して提出した。
- 今後は常識の範囲内で、政務活動を自粛するような形で、政務活動を含めた議員

活動を行っていく。

- （会った相手は誰かとの質問に対して）調査先の相手様から「公表しないでくれ」という約束を前提に、政策教授とか意見交換をさせていただいたので、公表できない。
- 政務活動費は物凄い大事だけれども、議員という大きいカテゴリーの中では極々小さいものだ。だから、大人としての折り合いを付けさせて欲しい。
- 実績に基づいて報告しているのに何故との思いはあるが、折り合いが付くように、訂正・返納という形を事務局と相談させていただく。

いささか長い引用になりましたが、この発言を見ただけでも、野々村議員が議員として適格性に欠ける事は明白です。

野々村議員が、これまでどの様に議員活動を行って来たのかは分かりませんが、年4回の定例議会その他、毎月常任委員会が開催されている事等を考え合わせると、日帰りとはいえ年間200日も出張して歩くというのは異常です。

また、野々村議員は、議員という大きなカテゴリーと比べると政務活動費は極小さな問題だと述べていますが、彼には、自分の活動が国民（県民）の税金で支えられている事への認識が欠如しているといわざるを得ません。国民（県民）の負託に応えるための活動だからこそ、国民（県民）は税という形でその活動を支えているのです。彼の発言を聞く限り、彼の目線の先には、有権者である県民の姿は見えません。

県議会議員というのは、野々村議員にとっては特別の存在で、だから何でも許されると考えていたのでしょうか。少なくとも彼は、議員という公職の責任の重さを薄っぺらな紙程にも感じていなかったと思えてなりません。

お笑いの明石家さんまさんが「俺よりおもしろい」といったという話しが伝わっていますが、お笑い芸人が、政治家風刺であのようなパフォーマンスをしたというのなら、それはそれで立派なものですが、本物の政治家の振る舞いとしては、悪い冗談では済まされません。（塾頭：吉田 洋一）